

# モノづくり現場

9

## エレクトロヒート技術最前線

岸和田製鋼(大阪府岸和田市、鞆子重孝社長、072・438・0001)は鉄筋コンクリート用棒鋼を手がける。長く細棒メーカーとして市場をけん引してきたが、2011年からは太棒の生産も開始。15年3月には特殊用途向けを除いて最も太い「D41」も生産できるようになり、総合的な製品力で取扱を狙っている。

岸和田製鋼(大阪府岸和田市、鞆子重孝社長、072・438・0001)は鉄筋コンクリート用棒鋼を手がける。長く細棒メーカーとして市場をけん引してきたが、2011年からは太棒の生産も開始。15年3月には特殊用途向けを除いて最も太い「D41」も生産できるようになり、総合的な製品力で取扱を狙っている。

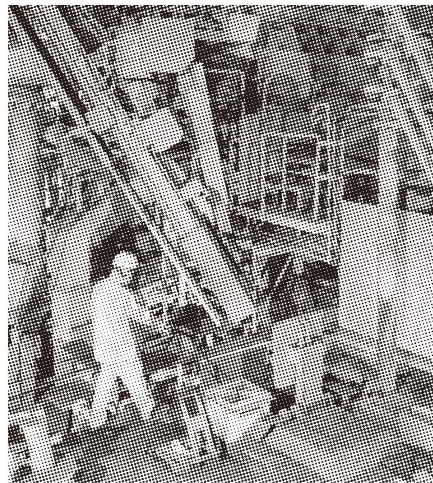
スチールプラントック製のシャフト炉「エコアーク」。バッチタイプのスキップコンベア挿入式で、出鋼量は毎時88〜92ト。ここで溶かしたスクラップを次工程の取鍋精錬炉(LF)で用途に合わせて鉄の性質を調整する。新型電気炉の導入は01年。工場への送電が専用線でなくなったのが背景だ。送電が周辺地域と統合し、従来設備では広い範囲で電圧降下を起す可能性が浮上した。この対策と同時に、「環境対応と、電気炉2基の体制を1基にまとめた」考えがあった」と、横山雅好取締役は振り返る。

新型炉は常に溶けた鉄を内部に抱え、投入したスクラップは一部が絶えず溶鋼に触れている。触れた部分は溶けていくが、このときの熱を炉への投入前にスクラップをどごめるチャンバーに誘導。ス

### 岸和田製鋼

## 新型電気炉を導入

# 電力使用量20%削減



巨大な炉の上部から中を確認する

クラップを予熱して、イオキシンが再合成する温度域を狭くし、この発生を抑制。「1立方メートル当たり0.5ナガスの急速冷却によりダ

イオキシンが再合成する温度域を狭くし、この発生を抑制。「1立方メートル当たり0.5ナガスの急速冷却によりダ

### 事業所概要

所在地＝大阪府岸和田市臨海町20、072・438・0001  
 主要生産品目＝鉄筋コンクリート用棒鋼  
 エネルギー使用量(14年度)＝7万2680キロワット時(原油換算)  
 年間CO<sub>2</sub>排出量＝(同)13万6405トン

0.02を実現した」投入のタイミング、成分・形状の見直しなどを含めた1ト当たりの取り組む点はある」(同)。同社は現在、14年度実績で310キロワット時。社内でも目指している。2015年度の目標を、今年2〜4月はクリアした。サイクルタイムの向上で競争力を高めている。野学彦(南大阪支局長・森)